

御前山ビオトープ通信

平成24年4月21日

第36号

発行：御前山ダム環境センター

編集：NPO「美しい田園21」清野

メール：denen21@hb.tp1.jpホームページ：<http://w01.tp1.jp/~a071771011/>

【案内図】



目次

- 1 御前山ダム周辺整備打ち合わせ 2月23日(木)
- 2 茨城県自然博物館企画展に参加 3月10日(土)
- 3 御前山ダム周辺植樹作業 4月18日(水)

1 御前山ダム周辺整備打ち合わせ

2月23日(木)御前山総合支所会議室において、県営中山間事業の打ち合わせを行いました。事業担当の県北事務所のほか、ダム事業主体の国営事業所、市役所、地元自治会など関係機関が出席しました。

前回、ダム下公園の整備計画、管理所などに対して、当センターとして意見を出しており、今回は具体的な図面も完成して最終的な打ち合わせを行いました。

工事は平成24年度内に完成する予定で、完成後は常陸大宮市から「御前山ダム環境センター」へ指定管理者制度により管理委託が行われることなどについて検討されています。すでにダム直下については、昨年御前山小学校児童により山桜やエノキの植栽が始まっています。今後は管理所を拠点として、地元が一体となって活動を本格化することが期待されています。地元からは、看板の設置や、その前段としてダム下公園やダム湖のネーミングなどについても意見交換が行われました。



2 茨城県自然博物館企画展に参加

県南の坂東市にある茨城県自然博物館では「植物たちのSOS」と題して、絶滅危惧種に関する企画展が開催されています。当センターは御前山ダム建設に関連して希少種の移植保全活動に取り組んできたことから、博物館の要請により関係資料の作成提供など協力してきました。3月10日(土)に企画展のオープニングセレモニーが行われ、県内から27の協力団体とともに、長山会長と清野が出席してきました。

主催者の山口自然保護会長などの挨拶、展示内容の説明、その後企画展会場の入り口でクス球割が行われ、学芸員から案内が行われました。「タチスマレ」の保護活動が印象的でした。午後は関連するシンポジウムが開催されました。企画展は同日の午後から一般公開され6月10日までの日程で開催されます。

我々御前山ダム環境センターとして希少植物の生体展示を行う予定です。



オープン、クス球割

3 御前山ダム周辺植樹作業

昨年度御前山ダムがほぼ完成し、地元住民やボランティアなど幅広い参加によるダム周辺整備の取り組みが本格化しています。4月18日は昨年に続いて2度目の植樹作業などを行いました

当日は晴天に恵まれ、午前9時半には地元御前山小学校6年生の児童、先生32名をはじめとして遠来のボランティアなど100名ほどがダム管理所駐車場に集合しました。

主催者の挨拶や作業説明のあと、2班に別れて作業開始です。第一班の子供達は国営事業所の誘導でダム直下広場まで徒歩で移動して、地元役員から作業説明を受けてダム左岸側に46本の山桜を手植えし、添え木と各自の名札を取り付けました。

昨年、一年先輩が植えた右岸側の山桜は全て立派に育っており、今後大木に成長するのが楽しみです。

第二班はダム湖対岸の半島部なので、車相乗りで移動しました。こちらはボランティア参加者が中心で、かなり広い場所でしたが75本の山桜を植栽しました。希望者にはオーナー制(千円)で名札に氏名、日付けを書き添え木に取り付けてもらいました。

なお苗は自生の山桜から採取し実生を3年前から育てているものです。

昼食は地元の婦人グループがいつも好評のオコワお握りなどを用意してくれました。当初はダム管理所周辺で食事する予定でしたが、気持ちの良い天気だったので、国営事業所の配慮によりダム天端にシートを広げて皆で食べました。ちょうど当日植栽した山桜を見渡すことが出来る場所で、「山桜が大きくなれば湖越しの絶景が楽しみ」、「船で対岸へ渡りながら花見ができないか」など、夢が膨らむ楽しい

昼食となりました。

参加者が多く予定より早く作業



ダム直下広場、子供達への説明



オーナー名札書き、対岸広場



改築したベンチに座って満足



ダム天端で山桜を観ながら昼食

が終了したので、都合のつく者には午後も御前山ビオトープの育成作業をお願いしました。老朽化した階段教室ベンチの改築、猪害で崩壊した法面修復、移植植物周辺の枝葉除去などを行いました。

ベンチの杭打ちはかなりの重労働でしたが、間伐材を活用して改築したベンチに座って出来栄えに満足でした。